

Chapter 2

iPadでできる人 インタビュー①

川崎和男

～iPadで情報をつかみ取る～



Kazuo Kawasaki

デザインディレクター・博士(医学)/大阪大学
大学院教授

デザインディレクターとして、伝統工芸品からメガネやコンピュータ、ロボット、原子力エネルギー、人工臓器、先端医療、海事戦略、宇宙空間の装置化などまで幅広く、研究、教育、実務活動を行う。専門はトポロジー 空間論による多次元空間における造形手法をデザイン実務学とする研究。国内外での受賞歴多数。現在、デザインによる世界平和構築をめざして「Peace-Keeping Design(PKD)」というプロジェクトを提唱

2

デザイナー／大阪大学大学院教授

川崎和男

iPadで 自分に必要な情報を手に入れる

眼鏡から液晶テレビ、人工心臓まで、幅広いデザインを手がけるデザイナー・川崎和男が説くのは、最新の情報を手に入れ活用することの重要性。年々増加する情報量と、加速し続ける情報化のスピード。日々、変わりゆく世界に溢れた膨大な情報のなかから、自分に
とって必要な情報だけを取捨選択するためのツールがiPadだと言う。iPadは、情報を手に入れ、未来を切り開けるかどうかを左右する最重要デバイスだ。

iPadでデザインスケッチを描く

私はデザイナーという職業柄、ペンとスケッチブックが手放せません。アイデアが浮かぶとすぐに書き留めておきたいのです。iPad を手に入れた時、これからは、ペンとスケッチブックを持ち歩かなくてもよくなると思い、タッチスクリーンを指でなぞって絵を描けるアプリ「SketchBook Pro^[*1]」を入れてみました。しかし、タッチスクリーンに指で線を引くことは相当に難しく、紙のスケッチブックのようにスムーズに描くことができませんでした。

iPadをスケッチブック代わりに使うには、専用のアプリだけでなく、紙に描くような感覚で使える専用のペン^[*2]が必要です。例えば、iPadの画面上にパレットが表示されて、そのパレットに触れるとペンの太さや色を思いのままに変えられるペンがあったら、ペンやスケッチブックよりも直感的にスケッチできそうです。ワコム製のタブレット^[*3]は多くのデザイナーが使用していますが、iPad用の高性能なペンが登場して自在にスケッチできるようになれば、もうタブレットは終わるでしょう。iPadなら、カフェでも旅先でも、どこにいても絵を描けま

[*1] SketchBook Pro
Autodesk社のペイント、ドローイングソフトウェアのiPadアプリ。PC版もある



[*2] 専用のペン
すでに株式会社サンワサプライなどがiPad入力用のペンを販売しているが、通常のペンに比べるとペン先が太い

[*3] ワコム製のタブレット
株式会社ワコムのペン入力デバイス。描画性能の高さから、デザイナーやイラストレーターに愛用者が多い

22